

## 令和4年度（2022年度）第1回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

1 日時 令和4年（2022年）5月23日（月）午後2時～4時

2 場所 南区役所 3階大会議室

3 出席者 計32名

・南区まちづくり懇話会委員 14名

柴田委員（会長）、平井委員（副会長）

前出委員、榊田委員、吉本委員、村山委員

正木委員、島田委員、永井委員、澤田委員、堀川委員

仁科委員、北岡委員、宮崎委員

・事務局（熊本市職員） 18名

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、区民課長、土木センター所長  
福祉課長、保護課長、保健子ども課長

南区管内まちづくりセンター所長（6名）、総務企画課職員（3名）

4 内容

（1）開会

（2）区長挨拶

（3）意見交換

議題1 南区まちづくりビジョンの検証について

議題2 令和4年度南区まちづくり推進事業について

報告1 南区役所令和4年度の重点取組について

報告2 実施した事業について

（4）その他

令和4年度自治会長・校区自治協議会会長合同会議

（5）閉会

5 意見交換議事録

議題1 南区まちづくりビジョンの検証について

<資料1について 事務局から説明>

（柴田会長）

資料4ページの検証の進め方について、具体的に説明をお願いしたい。まちづくり懇話会は検証で何を必要とするのか、また、自治会やその他の団体では具体的に何をするのか。

(江区長)

検証の方法としては、まちづくり懇話会を始めとした各種団体から幅広く意見を募りたい。10年前と比べてどうなったかというアンケートを実施するのが一般的な手法だと考えるが、「まちづくりビジョン」が区民の皆様にどれだけ周知されているか、アンケート調査はなじまないのではないか、と心配している。本日は、ビジョンの内容をご説明し、10年前と今を比べてどのように変わったか、率直なご意見をいただきたい。

(正木委員)

農業分野では、地震や大雨による災害があり苦慮される方も多かった。高齢化により農家は少なくなっているが、これはどこの地区でも言えることであり全体として取り組む必要がある。南区は農業圏であり、後継者も多いところではあるが、農業による売り上げを今より高いところにもっていくにはどうしたらよいかという課題はあり、それはまちづくりだけではなく、全体の中でやっていかななくてはならない。

(北岡委員)

子ども達はみんなで育てていかなければならないが、最近は大人も子どもも挨拶をしない。知らない人とは話をしない、という教育になっており、すぐに警察に通報されたり SNS にアップされたりする世の中になったので話しかけることもできない。よいまちづくりをするためには、学校、地域で挨拶運動から始めるとよいと思う。

(永井委員)

住民の関心の低さから、アンケートはなじまないと感じる。環境活動のワークショップを行っているが、底上げに苦慮している。関心を持って地域活動に参加してもらうには、根本を変えないとできないと痛感している。

(澤田委員)

城南校区は25年ほど各種団体、PTAなどが小学校の前で挨拶運動を行っている。そのおかげか、登下校中の小中学生は路上で会うと挨拶をしてくれる。長い間やってきたことの結果だと自負しており、挨拶運動はとても大事だと感じている。

(榊田委員)

アンケート調査の中身をどのように絞り込むかによって結果は大きく変化する。アンケートをするのであれば、区民がどのようなことを思っているか表現できるようなアンケートを作るべき。南区独自でもよいので考えていただきたい。

(事務局)

アンケートについては、政策企画課で実施する予定。資料1のアンケートは、南区で実施したH24年とR1年の比較であり、実施予定のアンケートは内容が一致しないものの、できるだけ南区の意向に沿った内容を含めてもらえるよう提言したい。

(柴田会長)

アンケート調査について詳細な経緯は存じ上げないが、H24年の1回目のアンケートは、まちづくり懇話会の前会長のときに、懇話会の場で意見を頂いて実施された。令和元年は私が集計などに携わった。2回目は1回目と比較するためにあまり項目を変えず、少し追加するなどしたが、懇話会の場で報告しながら進めたという経緯がある。

(宮崎委員)

アンケートの手法については、世代、地域、男女、年齢に偏りがないように実施していただきたい。市公式LINEを使ったアンケートは、様々な層の方にも働きかけができてよいと思う。校区カルテができ、人口の変化などのデータもあるので、それを踏まえた課題の抽出と検証は、アンケートを交えた手法で取り組んでいただきたい。数値的な成果目標がどれだけ達成できているのか項目ごとに明らかにしていただけると、検証しやすい。

(平井副会長)

富合校区は、10年前から人口が約2倍に増えたが、校区の中でも地域間格差が出ている。また、以前から住んでいる方と、新たに來られた方とのコミュニティづくりで苦労があると感じている。

挨拶運動については、子どもだけでなく大人が率先してやること。また、地域でも声をかける。ということが大事だと思う。

(江区長)

南区は、10年間で約8,000人人口が増加し、五区の中で最も増加数が多い区となった。一方で、宅地開発が行われる地域とそうでない地域など、校区単位で格差が生じている。また、同じ校区内でも開発されているところは子どもが増えているが、そうでないところは高齢化が進むという状況。南区と一括りにすることが、地域の課題を見えづらくしている可能性もある。

(正木委員)

中心部から少し離れると土地が比較的安く、宅地に変更できる場所は開発されて、住宅が増えている。飽田地区の中でも東、南は住宅が増加しているが、西はそうではない。また、住宅は建てられてもスーパーなどの店舗が建てられないことで、買い物難民の問題もある。

(柴田会長)

住宅を建てた若い方は車で移動できるが、それが持続的かどうかという問題はある。

(榊田委員)

道路の路面標示がわかりやすくなり、非常によいことだと思う。児童の通学路については特に配慮していただいております、土木センターに相談した際もすぐに対応していただ

いた。わかりやすい路面標示は、安全運転にもつながっている。

(事務局)

路面標示について、安全運転につながっているというお声をいただき嬉しく思っている。路面標示は、道路関係事業費の中では比較的安価で効果が出やすいので、今後も地元からのご意見を聞かせていただきたい。

(仁科委員)

アンケートでは、10年間で少子高齢化と災害について関心が高まったという変化が見られた。熊本地震や水害もあったため、区民の関心が高まったと思われる。このような機を逃さずに行政で災害について取り組む施策を展開するべき。

人口が増加しているところとそうでないところがあり、地域間格差が生じると、全市的な施策や南区としての均一的な施策では、効くところと効かないところが出てくる。まちづくりセンターごと、小学校区ごと、自治会ごとなど、コミュニティレベルでの課題や目標を明確にしていくことが、今後の南区のまちづくりについて重要。

(柴田会長)

コミュニティごとというのは同感。そのことと検証の進め方はリンクしている。細かい地域ごとの課題がうまく検証できるとよいと思う。

(江区長)

区全体で課題を抽出すると、市全体や全国的な課題になってしまう。そこで昨年初めて、校区カルテを作成した。住民同士のつながりが強い小学校区単位でまちづくりを進めていくのがよいのではと思っている。さらに今年度は、まちづくりに関心がある方々にお声掛けをして、ワークショップを開催する。1回で終わることなく、定期的にまちづくりについて話ができる交流の場を作りたい。

(柴田会長)

私としては、各取り組みや方針の横の連携や繋がりについて検証に加えていただきたい。例えば、農業に関する部局は区役所にはないが、子どもの食育という観点では、農業との連携は重要。先ほど話に出た挨拶運動は、地域での子育てに関連しているが、防犯、防災分野にもリンクしている。項目ごとに単独で評価するだけでなく、連携が次期のビジョンにとっても重要なポイントになると思うので、そのようなことにつながる検証の方法を検討していただきたい。

## 議題2 令和4年度南区まちづくり推進事業について

<資料2-1について 事務局から説明>

(吉本委員)

コロナ禍で閉じこもりがちの方もいるので、南区いきいきスポーツ大会では、各まちセンでウォークラリーなどを取り入れてみてはどうか。

(事務局)

南区いきいきスポーツ大会は、スポーツ推進委員を中心に行っており、ご意見について伝えたい。また、今年度は南部まちセンエリアでQRコードを活用したクイズラリーを実施する予定。

(村山委員)

スポーツ大会について、誰でも参加できるものを検討していただきたい。

(平井副会長)

補助金のオンライン申請を進めておられるが、パソコン等の機器の購入について補助がないかという意見を聞く。また、自治会長の後任が見つからず10年以上務めている方もいて高齢化しており、デジタル化にも抵抗がある。

(江区長)

今年度から補助金のオンライン申請を開始したが、環境が整っていない団体も多いことから、紙ベースの申請も継続することとした。

自治会の高齢化、担い手不足については、若い方々を地域づくりに巻き込むことが次の担い手の確保につながると思う。昨年度、富合校区では商工会青年部のイルミネーションイベントを行い、青年部としても手ごたえを実感したと感じている。

自治会長は様々な役職を兼務されている。柴田会長から、各取り組みの横の連携を重視すべきとのご指摘をいただいたが、本市では校区自治協議会を組織しており、様々な役職や団体の方が参加されているので、今年度はこれを活性化していきたい。

(堀川委員)

日吉東校区では食の支援ということで社協が地域の子ども達や、校区外の施設の子ども達に声をかけ、子ども食堂を主催した。校区の枠を超えた取り組みも大事だと思う。

保健師が子育て支援の団体等に聞き取りを行い、子育てネットワーク事業に関するアンケートを実施された。行政側だけでなく、皆さんにも共有していただきたい。

(北岡委員)

子ども食堂をやっておられる方に、野菜を提供したことがある。農家には出荷できないが提供できる野菜はたくさんある。校区を超えたネットワークを作り、食材が提供できる仕組みができるとよい。

(正木委員)

農家では、出荷できない野菜を廃棄しているが、子ども食堂ではそのような野菜も使ってもらえると聞いている。それらの野菜を誰が集めてどこに運ぶのかという物流の問

題について、認定農業者の協議会でも以前から議題に上がっている。単発で提供することはあっても長く続かないため、続くようなシステムを作る必要がある。

(堀川委員)

ひとり親支援の拠点となっている団体が、物資の受け入れも行っておられるので相談されるとよいと思う。

#### 報告 1 南区役所令和 4 年度の重点取組について

<資料 3 について 事務局から説明>

(柴田会長)

デマンドタクシーの実証実験について、対象地域の規模と数をお尋ねしたい。

(事務局)

中学校区規模で検討中であり、本庁予算の範囲内で行うため、1箇所となる見込み。

(正木委員)

まちづくりワークショップについて、呼びかけの方法とどのような方が参加されるかお尋ねしたい。

(事務局)

幸田まちセンでは5月27日(金)に第1回目のワークショップを開催予定。幸田まちづくりサポーター約150名へ通知し、地域団体や企業の方へもお声かけしている。

#### 報告 2 実施した事業の報告について

<資料 4 について 事務局から説明>

(柴田会長)

避難場所に関して認知はされているが、場所が適切でないという回答が3割いる。これは重要な点だと思う。

(正木委員)

天明地区は高い建物がなく、高潮のときに逃げる場所がない。熊本地震のときは車が渋滞した。アンケートを実施されたが、それが実際にどのように生かされるのか。ハザードマップも現実性がないように感じる。

(柴田会長)

資料 4 のハザードマップによると、高潮の場合にはほとんど浸水してしまう。また、

情報の入手方法は携帯電話、スマートフォンが多い。基地局が被災したときは使えなくなるので、スマートフォン頼りというのは危険。

(仁科先生)

三陸海岸の津波被害の後に、東北地方などでは、ハザードマップに加えて「逃げ地図」を作成している。住民と行政が一緒に作ったもので、渋滞しないように分かれて逃げる、高層の団地に逃げるなど、災害のときにどのように逃げるかが記されている。自分で逃げるができない高齢者は、誰が車に乗せるかなどの情報も記されている。そうすることでコミュニティの絆もできていく。天明地区でも逃げ地図を作ってはどうかと思う。

## その他

<資料5について 事務局から説明>

(柴田会長)

議題は以上となるが、全体を通して何か意見はあるか。

(北岡委員)

自治会長の名前も顔も知らない人が多いので、自治会役員が手分けして町内を家庭訪問してはどうかと提案した。いつも行事に参加するのは顔ぶれが同じ。顔のつながる自治会活動をすることで、南区の活発な活動につながる。顔見知りが多いと災害のときにも役立つ。

(江区長)

地域住民の相互の信頼関係ができていくことが、まちづくり活動の目的であり、効果であると思う。